

静岡市清水区感染症発生動向

2014年 6週

集計期間 2/3-9

	-6M	6-12M	1Y	2Y	3Y	4Y	5Y	6Y	7Y	8Y	9Y	10-14Y	15-19Y	20Y-	
RS感染症						1								1	
咽頭結膜熱															
溶連菌感染症					1	1	2		1					5	
感染性胃腸炎		3	3	8	8	11	9	10	7	6	7	11	2	85	
水痘			1			1								2	
手足口病															
伝染性紅斑															
突発性発疹				1										1	
百日咳															
ヘルパンギーナ															
流行性耳下腺炎															
麻疹															
風疹															
マイコプラズマ															
髄膜炎															
MCLS															
小児科Flu	3	1	23	12	21	23	25	43	27	24	13	53	4	3	275
	小児科定点総数 369 増減 -60 前週比 86% 定点当たり 61.5														
	病院:開業医 15:354 増減 +7:-67														
内科Flu			1	1			2			1		5	2	33	45
	インフルエンザ総数 320 増減 -8 前週比 97.6% 定点当たり 35.6														
	小児科:内科 275:45 増減 +18:-26														

総数369、前週の86%と、大幅に減少です。

これは、感染性胃腸炎の大幅減少によります。

首位は、インフルエンザ、前週比107%、定点当たり45.8とやや増加です。

2位は、感染性胃腸炎、前週比54%、定点当たり14.1と、やや、半減です。

以下は、インフルエンザに抑圧されて、全て、定点当たり1未満で少数です。

溶連菌感染症のみ、5名で、僅かに目立ちます。

内科も含むインフルエンザ、前週比97.6%でやや減少、9定点中、9定点から報告です。

小児科定点は、A型171、B型61、型報告無43で、A型が73%と前週とほぼ同じ比率。

内科定点でも、A型27、B型6で、型報告無12で、A型が81%と前週とほぼ同じ比率。

内科定点は、減少しましたが、全体的には、ほぼ前週と同様の状況です。

ここをピークに小流行で終わるのか、B型が増えて、さらに増えるのか、

経過をみたいと思います。